

平成19年11月29日午後1時—3時

平成19年度堺市議会
海外調査研究派遣 事前研修テキスト

自転車博物館サイクルセンター

事務局長・学芸員 中村博司

- (1) 自転車の街・堺とその歴史
- (2) 『夢・自転車』自転車の歴史と自転車博物館の紹介
- (3) 自転車の可能性
- (4) 自転車の社会的課題
- (5) 放置自転車問題
- (6) 自転車事故問題(特に歩道上の自転車と歩行者の事故の増加)
- (7) スライドによるヨーロッパの自転車事情紹介

以上

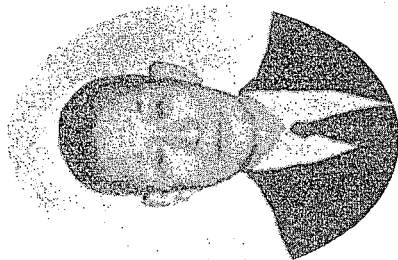
堺と自転車

ここで、堺と自転車の関わりについてお話したいと思います。自転車が日本へ伝わったのは、幕末の慶応年間に横浜へやってきた外国人が自家用として持ってきたものが最初だと思われます。持ってきた時代から見て、オーデイナリ型より一つ前のミシヨ型ボーンシエーカーだったはずです。これですと、見本さえあれば日本の鍛冶職人の力でつくることができますから、「国産車」もすぐにつくることができたと思われます。

明治初年頃になりますと、日本中のあちこちの都市で貸自転車業が開業され、いずれもある程度繁昌したようです。その時使われている自転車はかなりの数に上ったはずですから、手作りのボーンシエーカー型の自転車がたくさん作られたようです。

横浜の梶野甚之助が自転車工場を作ってオーデイナリ型の自転車を量産したのは明治二〇年(一八七九年)で、明治三年(一八八二年)にはセイフティ型の自転車の生産に成功しています。同じ神奈川の話ですが、この年に皆さんも御存知の宮田自転車の前身である宮田製銃所が自転車の試作に成功しています。

さて、堺の鉄砲鍛冶と自転車の話に入りますが、どの本を調べても昭和十四年(一九三九年)の『堺



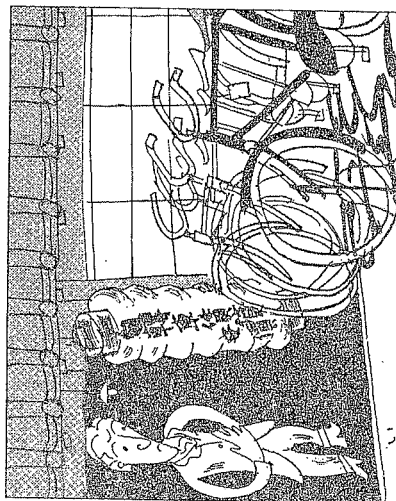
北川清吉氏

の『自転車』の中におさめられた北川清吉氏の面白い回顧談が出てきます。

「私が、商売に入ったのは、確か明治三二年頃だと記憶しておりますが、堺に自転車は、さあ、七、八台もありましたか、全く珍しいもので、当時、自転車とは呼ばずに『アホ車』と呼ばれておりました。一般人の乗るものでなく上流階級の人だけの乗り物、玩具として取り扱ったからです。勿論その

価値も高く、クリーブランド号で一七〇〜一八〇円、中古のコロンビヤ号、ウエスト号でも七、八〇円したもので、全部米国製です。当時の一七〇〜一八〇円といえたいしたお金ですよ。豆腐一丁が一銭、桐篋筒が六円五〇銭でしたから、自転車に乗ったりする者は、アホだ、アホ車だと、いったものです。警察でも、そういうのですから、全く可笑しい話で、大阪市内でもあまり見かけませんでした。(著者の寺井栄太郎氏の談によると、明治三五〜三六年頃、大阪にいた時、船場のど真中の本町、南本町辺りでも、一町内に一台の自転車が有ったか無かったかだということです。)

最初は、自転車の時間貸しで、三尺位の長い提灯の表に『自転車貸貸』裏に『修繕は迅速安価』と文字の入ったのを軒に



昔の自転車の貸貸し屋の風景

つり下げました。そうした時代ですから、一時間の貸貸料は三十銭から五十銭で車によって値が違いました。自転車を借りる人は相当な人はかりで、大変はやりましたが、素人のかなしさ、よく衝突して、前リムを折りました。当時は木リムで、この修繕には費用も相当かかりました。というのは、前リムが欲しいといえは後リムも買わねばならず、後リムだけ沢山残りました。金属部分の修繕は、今(昭和三三年)のようにどこにでもある訳でなく、桜之町の近藤嘉市という鉄砲鍛冶屋が直してくれました。フレームの折れ直し賃は三円位でした。神戸の橋本商会の高谷さんが、大阪の弁護士や医者のような人々を集めて中之島公園の辺りを乗り回し宣伝されたのを記憶しています。

やがて、明治四〇年頃に英国製自転車売り出されました。この英式は米式と比較して値段も安く、見たところ米式よりも感じも良かったので、数年ならずして、すっかり英式に変わってしまいました。あの、ラーズという車などは英国の代表的な車でした。

明治三七〜三八年頃に、私の店でも修繕をするようになりましたが、ホークは佐々木という人に作ってもらいました。また、ハンドルを作るにはパイプをポンズで押し曲げて作ったものです。その他、いろいろな部品は機械もなく手でコツコツと作られていました。明治四〇年頃から多数の和製自転車が出回りましたが、フレームだけは舶来品を使用していました。」

以上が、北川清吉氏の回顧談になります。

時間貸という遊びの用途から交通手段としての自転車への転換が起こったのは明治三〇年(一八九八年)頃に空気入りタイヤが国内生産されてからです。

堺でも明治三八年(一九〇六年)に四〇〇台だった自転車が翌年には九〇〇台と倍以上に増えています。大正に入って、第一次世界大戦の影響で欧米からの自転車の輸入が止まり、国産化がすす